

広島大教育 ○菊沃康子 関志比子

島根大教育 多々綱道子

目的 生涯教育的視点で家政教育を考える場合、学卒後の家政教育は対象婦人の学歴と無関係に企画することはできない。とくに、学校教育でとり残された者は社会教育でもとり残される状況、および従来の婦人教育関係の研究対象が高学歴層に片よりがらである。この点からも広範囲の学歴層と対象に現実の生活に立脚した家政教育を検討する必要があると考えた。本報では婦人の学歴と現在の学習活動への参加状況とその内容、現在日常生活で用いている知識技術の供給源、家庭科の評価と期待などとの関係を明らかにしたい。

方法 前報と同様である。学歴は旧制小卒と新制中卒を(初)、旧制女学校卒と新制高校卒を(甲)、旧制専門学校卒・師範学校卒と新制短大以上を(高)と分類する。

結果 ①対象者の学歴は(初)30.1%、(甲)43.3%、(高)15.5%であった。②学習活動への参加率は学歴の高い者ほど高かった。③日常生活上必要な知識の供給源は「家族の人間関係」「健康生活」「家計」「趣味のもち方」などについては(高)は家族から学んだ者の割合が多いのに対して(初)は家族以外にラジオ・TV、近所や地域の人からの知識を求めていた。④家庭科に対する評価は学歴の低い者ほど実生活に役立ったという者が多かった。⑤家庭科に対して期待する教育内容は全体としては「育児」「健康」「家族関係」「精神生活」「家事」が順次あげられていたが、学歴差がみられたのは、高学歴の者には「消費者問題」「婦人問題」をあげた者が多かった点である。⑥現在の生活課題としては、(初)、(甲)は「健康」を、(高)は「家庭教育」をあげた者が多くみられた。⑦現在の学習活動への参加の仕方や学習方法も学歴によって異なる点を今後の家政領域の社会教育では考慮する必要がある。